

監督会議 資料

- 1) 今大会については、新ルールは適用せず、現行ルールにて行う。
日ア連レフェリー委員会による、全国レフェリー委員長会議にて、以下の通り決定した。
11月トライアル開始、12月適用開始。
- 2) コロナ感染症対策
 - ①うがいを含め、つば吐きの厳禁⇒違反時はゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。
 - ②ベンチにおいて、選手、スタッフは大声を出さないこと。選手、スタッフが大声を出した場合、1度目は警告、2度目はミスコンダクト・ペナルティを科す。
 - ③ベンチでスタッフがマスクを外した場合、1度目は警告、2度目はベンチ・マイナーペナルティを科す。
 - ④試合中、選手は座っていること。交代選手も交代する直前まで座っていること。
- 3) 用具について
 - ①選手は、ベンチ及びペナルティ・ボックスにいるときも、ヘルメットを正しく装着すること。
 - ②試合前の練習中にも顎ひもを正しく装着すること。
 - ③バイザーを使用する場合は、鼻まで覆うこと。
 - ④ユニフォームの裾は、パンツの外に出しておくこと。ベンチにいる間に正しく直すこと。

*試合前の防具チェックを含め、1回目は警告、2回目はミスコンダクト・ペナルティを科す。
- 4) プレーについて
 - ①今シーズンも重大な事故につながりかねない頭部及び頸部へのチェック、背後からのチェック、ボーディング等の行為は、厳しくペナルティを科す。
 - ②プレー中断時の選手交代は速やかに行うこと。
ビジターチームは、レフェリーがハンドアップする前に交代する、レフェリーがハンドアップしている間、ホームチームは交代できるが、手を下ろしたら交代は出来ない。
 - ③フェイスオフの手順は、攻撃側選手がポジションを決める⇒守備側がポジションを決める⇒守備側がスティックを定位置に付ける⇒攻撃側がスティックを定位置に付ける。を守ること。
 - ④第2、第3ピリオドは、**ザンボが終了後、直ちに試合を開始できるよう**、余裕をもってロッカールームから出ること。
直ちに開始できない場合、ペナルティを科す。
 - ⑤ペナルティを科せられた選手は、ペナルティ終了30秒前までは座っていること。
 - ・ペナルティタイム終了後のドアは、ペナルティボックス・アテンダントが開閉する。
 - ・終了前に失点してリンクに戻る際は、ペナルティを科せられていた選手自身がドアの開閉すること。
 - ・ペナルティボックス内では、一切の私語を禁止する。

以上